

〈ICT教育：高等学校 英語〉

# 他者から学び、自らの考えを深めるライティング活動の充実

—Teams を活用した技能統合型のシェアリング活動を通して—

沖縄県立那覇国際高等学校教諭 喜瀬 奈緒

## I テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領（平成30年告示）（以下、「新学習指導要領」とする）では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す」と掲げられている。ここで求められているのは、4技能の定着だけでなく、それらを「統合的に」運用できる力を身につけ、主体的・対話的で深い学びにつなげることである。さらに、大学入試改革により、2024年度から英語の試験は「大学入試英語成績提供システム」が導入されることとなった。大学入試の受験が必要かどうかに関わらず、高等学校の英語教育界にとって、この大きな転換は、これまでのリーディング活動が中心のインプット型の授業から、知識のインプットに加え、自らの考えを表現するアウトプット活動が重要であることを指し示されたものとなった。また、SNS時代と呼ばれる現代を生きる生徒たちにとって、世の中に溢れる情報の中から正しいものをキャッチし、それに対する自分の考えを発信するという新たなスキルが必要になってきている。時代の流れは、同時に、日本国内、沖縄県内でも様々な国籍の外国人と出会うようになり、海外に出向かなければ英語を使わないという状況ではなくなった。生徒たちは、スマートフォンやタブレット端末といった身近なデバイスやアプリを使いこなし、円滑で誤解のないコミュニケーションを可能にする力を身につける必然性が出てきた。このように時代は大きく変化し、これからの予測困難な時代を生き抜く生徒にとって、ICTを活用した活動を通して4技能の習得を図ることは、社会の変化や多様性に対応するためにも大変有効な手立てになると考える。

昨年度までの私自身の教育実践を振り返ってみると、教科書の本文を読んで考えるリーディング活動、副読本を用いたリスニング活動や、与えられたトピックについて書くライティング活動、書いた英文を暗記してスピーチを行う活動というように、4技能それぞれの活動はほぼ全て行ってきた。しかしながら、教科書の内容を読み、考えを深めて、それを伝え合うといった統合的な活動という点においては手薄であった。特にライティング活動においては、レッスンの最後に内容に関する自分の考えを書かせ、ワークシートを提出させた後は、わずかな添削で返却する程度で終わってしまっていた。教師のフィードバックが不十分だと、「書く作業」のみに留まり、自らの技能習得を実感できない生徒もいた。新学習指導要領で謳われている「統合的な言語活動」を実現するためには、書く活動と同時に、他の技能を使用する場面設定の工夫が必要であり、評価方法を含めた計画的・継続的な授業設計を考えていかなければならない。

そこで本研究において、クラウドサービスの1つであるOffice365が提供するサービスの中からTeamsを活用したライティング活動を実践したいと考える。パソコンやタブレット機器などを使って英文を書き、Teams上に保存することで、クラスの全員と共有することが可能になる。従来の紙と鉛筆で行ってきた英文を書く作業の効率化を図るだけでなく、シェアリング活動として、生徒は簡単にクラスメートの英文を閲覧したり、お互いの英文について意見を交換したり、コメントを残したりできる。こうして「書く」ことを起点として、聞く、読む、話す、といった他の技能とも統合的に結び付けた活動になるだろう。また、教師にとっても、生徒にデジタルデータで英文を提出させることで、提出物の管理を効率よく行い、丁寧な添削指導やフィードバックのための時間を確保することにつな

がるはずである。シェアリングや書き直しの時間を設けることで、生徒は英語を用いた他者とのやり取りが充実でき、自分とは違う考え方や、自分だけでは思いつかなかった表現などの新しい発見があるだろうと考える。シェアリングを通して自分の思考を深め、発信する力を身につけることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

ライティング活動の場面において、Teamsを活用し、技能統合型のシェアリングを行うことで、他者から学び、自己の考えを深めることができるであろう。

## Ⅱ 研究内容

### 1 理論研究

#### (1) ライティング活動の意義

ライティング活動とは、自分の考えや思いを英語で「書く」ことによって、他者に伝えるコミュニケーション活動である。新学習指導要領の英語コミュニケーションⅡにおける「書く」ことの目標として、「日常的な話題・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。」とある。また、ライティング活動は、同じアウトプット活動であるスピーキング活動に比べて、スペルや語彙、語法など高いレベルの語学力が要求され、より高次の活動とされている。一方で、自分の考えを生み出し、時間をかけて吟味できるという利点を挙げる研究者も少なくない。大井恭子(2008)は、『書くこと』は実は学習者の『考える力』を高める『知的訓練』でもあるのです。また習得の途上にある英語学習者にとっては、他の技能(『読む』『話す』『聞く』)の上達にも大きく寄与する力になります」と唱えており、ライティング活動が他の3技能との統合的な活動と大きく結びついていることも踏まえたい。ただ与えられた紙面に自分の考えを書き述べるのではなく、読み手がいることを意識させ、書く内容を考え出し、読み手に伝わりやすい表現を使い、論理的一貫性のある文章が書ける指導が求められていると考える。

#### (2) 4技能を統合した活動について

4技能とは英語を「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」を指している。新学習指導要領では、具体的な育成目標を以下のように掲げている(表1)。

表1 高等学校学習指導要領より

- |   |
|---|
| <p>(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> |
|---|

つまり、ライティング活動には、一連の活動の中に、教科書の本文を読んで考えたり、ペアの意見を英語で聞いたり、自分の意見を話して共有したりという活動が含まれることが望まれており、こうした統合的な活動を通して、外国語を用いたコミュニケーション能力の育成を目指している(図1)。そして、ライティング活動だけではなく、英語で行う全言語活動がコミュニケーションタイプであることが求められている。

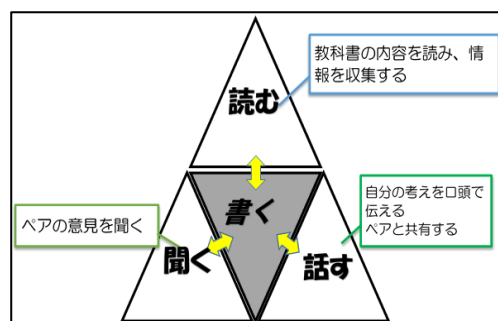


図1 4技能を統合した活動のイメージ

### (3) ライティング指導について

大井(2008)は、ライティング指導の典型的なステップを、図2のように提唱している。上記のステップを参考に、本研究では一連の活動が4技能の統合的な活動になるように進めていく。

与えられたトピックについて、生徒は自分の考えや意見を出していく。その際、ペアやグループに英語を用いて他者に伝えるようにし、お互いのアイデアを共有する(Idea generation)。自分の頭の中に思い描いていることを言葉にしたり、他者からアイデアを得ることで、自分の書きたいことを整理していく。辞書を使

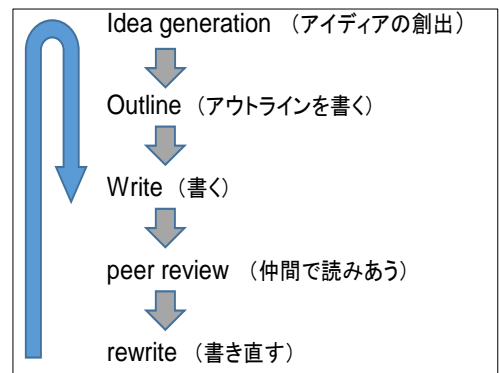


図2 Writing Process

使って表現方法を調べたり、インターネットや新聞記事などから情報収集を行いながら、アウトラインを作成する(Outline)。そして、文章を正しく構成し、論理的に書くことを意識して書いていく(Write)。もっとも、この段階においては、英語ライティングの構成(序論・本論・結論)について事前の指導が重要だと言える。こうして書きあがった英文を、文法や文章構成などの言語面をペアになってチェックし合う。この他者の英文を読む段階において、生徒は自分が使わなかった新たな表現(言い回し)や既習事項といった言語面だけでなく、新しい考え方や情報などの内容面で、発見や気づきが生じることが期待できる(Peer review)。この新たな気づきや学びは、ワークシートに記入し、それらを参考にしながら推敲を重ねる。教師は、デジタルデータで提出された英文を添削し、コメントを加えて生徒へフィードバックを与える。英文を生徒へ返却した後、生徒は書き直しを行う(Rewrite)。

蔵知英(2018)による実践では、「ライティングタスクを実施した結果、生徒たちは予想以上のパフォーマンスをした。『どうせできない』ではなく、生徒が書きたいことを表現させることが重要である。普段の授業で自己表現の場を設定し、フィードバックをしながら共通した誤りを全体に周知しつつ、その修正方法を明示的に教えるのではなく、気づかせることも大切だ」と結論付けていた。ライティング活動を起点とした4技能の統合的な活動で、生徒は、教師を含む他者とのやり取りの中から深い学びが見いだせるのではないかと考えている。

## 2 ICTの活用

### (1) ライティング活動におけるICT

新学習指導要領では、指導計画の作成に関する事項として、「(8) 生徒が身につけるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高めるとともに、英語による情報の発信に慣れさせるために、キーボードを使って英文を入力するなどの活動を効果的に取り入れることにより、指導の効率化や言語活動のさらなる充実を図るようにすること」とある。本研究においては、2 in 1 PC (以下PCとする)を使ったタイピングでの英文の文書作成(ライティング活動)に加え、Teamsを活用することで、ネットワークを介したシェアリングや、教師からの素早いフィードバックを実践する。これらのICT活用により、ライティング活動を含めた技能統合型の言語活動が充実し、主体的に英語で情報を発信する生徒を育てていくことができると考える。

### (2) Office365 (Teams) について

県立学校の職員及び生徒はOffice365のアカウントを所有することができ、様々なサービスを利用することができる。Teamsとは、そのOffice365が提供するサービスの1つで、チャットやグループ会議、データの共有や管理、スケジュール管理などを行うことができる。また、複数名のメンバーを追加して、チームを作成し、その中で目的別にチャンネルを設けたり、データを保存・共有する場所としてファイルを活用したりもできる。授業で使う場合には、課題機能

を利用して、宿題や小テスト等を配布し、採点やスコア管理なども同スペース内で行うことができ、教師の作業効率化も期待できる。Office365のアカウントを持っていれば、スマートフォンやタブレットといった私的デバイスでもブラウザ版と同じTeamsのサービスが利用できる。

本研究の一連のライティング活動においては、Teamsを、生徒が英文を保存し、クラス全体で共有したり、ペアで共有したり、書き直しをするためのツールとして活用する（図3）。



図3 Office365 (Teams) の活用イメージ

### 3 実態調査

#### (1) 教師のアンケート結果

現在のライティング活動の実態を知るために、本校英語科職員13名を対象にアンケート調査を実施した。回答は11名から得ることができた。「普段の授業を振り返って、4技能の活動を取り組む時間の長い（多い）活動の順に並べてください」という設問において、最も長く時間をかけて取り組んでいるのが「リーディング活動」であった。次いで「スピーキング活動」、「ライティング活動」、「リスニング活動」という結果が得られた。ライティング活動自体が時間のかかる活動であることを考えると、やはりライティング活動にかかる時間は相対的に見て少なく、積極的に行われていないことがうかがえる（図4）。

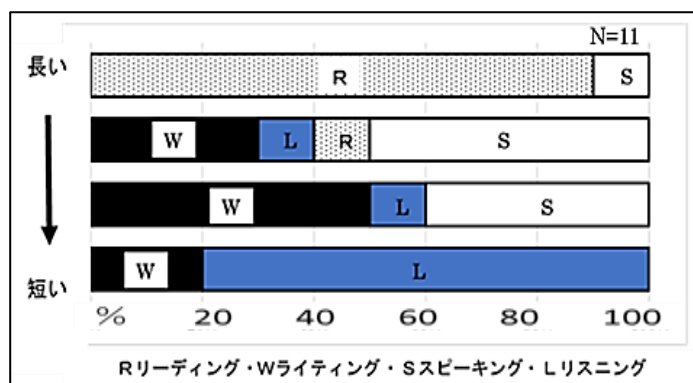


図4 4技能の活動の取組時間の長さ比較

さらに、「教師の添削時間の確保にどの程度困難を感じていますか」という質問に対し、全員が「とても困難を感じている」「やや困難を感じている」と回答している。ライティング活動を行う上で、添削やフィードバックは不可欠であると考え、生徒の英文を書かせっぱなしにしないことが大切だとわかった上で、継続して理想的なライティング指導を行うことが難しいと感じているのが現状といえる。同時にその評価の方法についても苦慮している職員は63%おり、PDCAを意識した活動にするための手段を模索する必要性がある。

さらに、「教師の添削時間の確保にどの程度困難を感じていますか」という質問に対し、全員が「とても困難を感じている」「やや困難を感じている」と回答している。ライティング活動を行う上で、添削やフィードバックは不可欠であると考え、生徒の英文を書かせっぱなしにしないことが大切だとわかった上で、継続して理想的なライティング指導を行うことが難しいと感じているのが現状といえる。同時にその評価の方法についても苦慮している職員は63%おり、PDCAを意識した活動にするための手段を模索する必要性がある。

続いて、私が最も重要だと考えている「書き直し」の作業も、実際は授業時間内ではなく宿題として課す程度となっており、クラスで共有したり、新しい知識を追加して書き上げるという活動まで至るには、少なからず工夫が必要である。時間の制約だけにとどまらず、ライティング指導の特性上、段階を踏みながら指導していくことも大切であることから、場面の設定や各ステップでの指導法においても試行錯誤していることがうかがえる。例えばアイデアを構築させるための手立てや、アウトラインを作成してから書き始める段階における指導の工夫はないか悩んでいるといった回答が多く見られた。

#### (2) 生徒のアンケート結果

英語の「ライティング活動」に対する生徒の意識を知るために、対象クラスの生徒にアンケートを実施した。「英語の4技能のそれぞれの活動の中でどの活動が一番好きですか」という質問に対し、「ライティング」と答えた生徒は20%で、同じアウトプット活動である「スピーキング」活動(32%)に比べると、苦手意識が高いことが分かった。同時に、「普段の生活の中で一番必要だと思う技能はどれですか」という項目では、誰も「ライティング活動」と答える生徒は一人もいなかった(図5)。普段の授業の中で、考えを「書いて」伝えることもコミュニケ



ーションの1つであることを伝えきれていないのだろうと考察する。その点で、スピーキング活動は、言語選別の自由度が高く、多少の誤りも相手と同じ空間で会話を交わすことによる理解のおかげで、好意的に捉えられているのだろう。

しかしその一方で、「将来まとまった英文を書く機会があると思いますか」(図6)や「今後に向けてまとまった英文を書く力を身に着きたいですか」の質問には、どちらも約7割の生徒が「はい」と答えており、将来的にライティングの技能が必要だと感じている生徒が多いことも分かった。この点において、「英文を書く力は将来的にどんな場面で役に立つと思いますか」という質問をした。最も多かった回答は「外国人とのコミュニケーションのため」、次いで「就職のため・社会に対応するため」「進学のため」「資格取得のため」であった。本校は多数の生徒が卒業後、進学を希望し、大学入試を見据えてはいるものの、英語でのライティングの力は入試のためだけではなく、将来的に多様な社会に対応するために必要だと考えていることが読み取れた。さらに、生徒は自分の思いや意見、考えを英語で発信する必要性を実感していると捉えることができる。この結果から、これまで授業の中で多く時間を費やしてきたリーディングやスピーキングの活動と同程度のライティング活動を行うことができれば、それぞれの分野での技能習得がバランスよく実現できると考える。

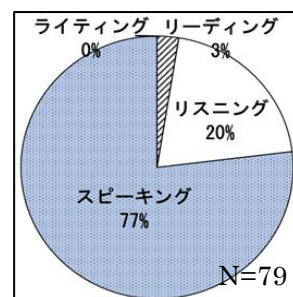


図5 普段の生活に必要な技能は

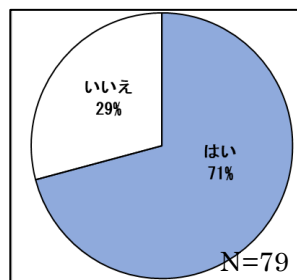


図6 将来まとまった英文を書く機会があると思いますか

### Ⅲ 指導の実際

#### 1 ライティング活動におけるICTの活用方法について

##### (1) MicrosoftのWordを使ったライティング活動

本研究の検証授業では、生徒が普段より使い慣れているWordを使用することにした。生徒は、書いたり消したりを容易に繰り返すことができ、さらにはライティングの最中にスペルチェックや語数カウントなどの校閲機能を活用し、書く内容に集中して思考できると期待した。また、教師は提出(保存)された英文を読みながら、コメント機能を活用し、文書の外側に現れるコメント欄にフィードバックを残すことにした。生徒の英文の上に訂正を書き加えるのではなく、コメント欄に書き残すことで、生徒がリライトをする際にフィードバックコメントを読みながら思考を深めたり、新たな作業スペースを設けることなく書き直したりできる利点があると考えた。

##### (2) Teamsの活用方法

様々あるTeamsの機能から、今回の検証授業では、以下の機能を中心にライティング活動で活用するものとした。

###### ① チャンネル(図7)

チーム内で目的毎に分けた小さなまとまり(チャンネル)を作成することができ、今回の検証授業においては、単元別にチャンネルを設定した。単元別にチャンネルを作成したことで、授業の指示が通りやすく、単元別に学習データを整理することもできた。

###### ② ファイル

生徒は、ワークシートを綴ったファイルを開くように、過去の単元で学んだことを振り返ることや、読んでみたいクラスメートの英文を閲覧していた。授業では、リライトまでの英文を各自の名前でファイルに保存し、教師もここから生徒へのフィードバックを行っ

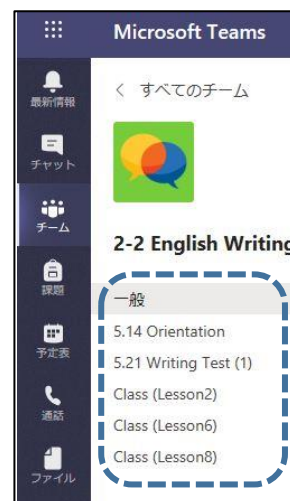


図7 チャンネル

た。保存された文書を誰でもが読めるという点においては、他者が編集をしたり、盗用されたりというリスクも懸念されたが、ファイル上では誰がいつ編集したのかも知ることができることを説明することで、そのようなリスクは回避した。ここで、モラル指導の徹底と同時に学習者の安全を確保することも心がけるポイントであることは述べておきたい。一方で、今回は誰でも読めるという状況が、読み手を意識し、言葉選びなどに配慮するライティング活動の場の設定としても有効に働いた。

### ③ 課題

ライティング活動の終わりに、リライト（書き直し）をさせ、「課題」に提出してもらった。「課題」の機能には、ループリックを作成し、フィードバックを返す機能があり、生徒も添付されたループリックを見ることができた。教師は、様々な課題を一括で管理し、一目で提出・未提出を確認することができるほか、スコアをExcelに移行して管理することができた。課題に提出されたデータは、教師と提出した本人しか見ることはできない。提出された後は、教師のフィードバックコメントを添えて、Teams上で返却した。教師の画面には、返却が終わった生徒とまだの生徒も一目でわかり、評価も多く時間を割くことなく終わることができたと実感している（図8）。

Writing Test (January)	
期限 2020年1月10日 23:59 • 終了日: 2020年1月10日 23:59	
採点対象 (5)	採点済み (36)
名前	状態
	提出されていません
	閲覧しました
	提出済み
	提出されていません
	提出されていません

図8 「課題」教師側の画面

## 2 ライティング活動について

本研究では、継続的に様々なトピックでライティング活動を行うことを目指し、3つの単位を取り扱うこととし、検証授業を6月、10月、12月に3回実施した。書く活動の前後に他の技能を統合した活動を加えた2～3時間を確保するものとし、思考の時間を設けた。

### (1) 取り扱う単位について

① 使用するテキスト ELEMENT II English Communication II (KEIRINKAN)

### ② 取り扱う単位と題材

第1回検証授業 (6月)	Lesson 2 “Stay Hungry, Stay Foolish” 「Steve Jobs のスピーチの中から印象的だったセリフについて自分の考えを書こう」
第2回検証授業 (10月)	Lesson 6 “Caddy for Life” 「本文全体の概要を捉え、要約文を書いてみよう」
第3回検証授業 (12月)	Lesson 8 “Selective Breeding” 「犬の品種改良について自分の考えを書こう」

### (2) 実施の流れ

時間	活動内容	Writing Process	必要な技能	生徒のICT活用
1	本文の内容を理解して、自分の考えを整理する	Idea generation	リーディング	
	ペアまたはグループで書く題材に関するアイデアを出し合う	Outline	スピーキング リスニング	
2	●実際に書く活動	Write	ライティング	Word Teams に保存(提出)
3	●ペアで共有・相互評価	Peer feedback	スピーキング リーディング	
	●全体で紹介・閲覧	Sharing	リスニング リーディング	Teams で閲覧
	●書き直し(リライト)の活動	Rewrite	ライティング	Word/ Teams に提出

### (3) 活動内容について

#### ① Peer Feedback（ピアフィードバック）

生徒はペアになり、Correction Code（言語面での訂正コード）・Checklist（構成や内容をチェックするためのリスト）を基に、パートナーの英文をチェックする。その際、パートナーから得た新しい学びは、ワークシートに残す。

#### ② Rewrite（リライト）

一度書いた英文を、ピアフィードバックの後に、再考して書き直す作業の時間を設ける。必ずしも書き直さなければならないものではないが、ペアや教師からのフィードバックを基に、もう一度自分の英文を見直すことで、深い学びにつながるものとする。

### (4) 検証対象クラスについて

本研究は2クラスを検証対象として実施する。それぞれをa組、b組とする。前年度9月実施のスコア型4技能検定GTECの平均スコアを見ると、a組は1280点中813.6点、b組は787.0点となっている（校内平均802.3点）。ライティング分野においては、a組が221.8点、b組は214.0点であった（校内平均217.7点）。トータルスコア及びライティング分野のスコアの比較から、2クラス間には英語力に差があることがうかがえた。授業はどちらのクラスも一貫して同じ内容で行うものとし、それぞれのクラスの変容を見ていく。

## 3 検証授業

### (1) 第1回検証授業

本文の内容をよく理解した上で、自分の生き方に置き換えて考えを深める活動とした。初めてTeamsを使った授業だったということもあり、ICT活用場面でのトラブルに見舞われた。表2に示したそれぞれの課題に対し、第2回検証授業に向けて対策を講じた。ライティング活動全体としては、自分の考えを述べるために、本文のスピーチをよく読まなければならない、また他者と意見交換をし合うなど、技能を統合した活動ができたとする。

表2 第1回検証授業における課題と対策

ICT活用場面でのトラブル	対策・修正点
40名が一斉に操作するとネットワークがつながりにくい？	情報部と連携し、Teamsのデスクトップ版アプリをインストールする
前に使った人のアカウントが残ったままで、混線してしまう	情報部と連携し、復元ソフトの設定を確認する
Teamsを使うことに慣れていない	Teamsを使う場面を普段から少しずつ取り入れる（宿題の解答や小テストのお知らせなど）
ライティング指導における課題	対策・修正点
シェアリングで時間がかかってしまった（相互評価の方法を検討）	○Correction codeのチェック項目を減らす ○「チェックリスト」の形にして簡潔にピアフィードバックが行えるようにする
英語でライティングする際の基礎が定着していなかった	夏休みを利用して、ライティングの知識をTeamsで配信する

### (2) 第2回検証授業

レッスンの導入として、本文全体の要約文を書く活動とし、その後のリーディング活動につながるような内容とした。本検証授業においては、前回のICT活用場面でのトラブルが多少解消されたものの、肝心のピアフィードバックの取組がうまく機能しなかった点が大きな課題となった（表3）。活動全体を振り返ると、要約文を完成させるための主体的・対話的な実践になっており、生徒の学びを深めるライティング活動になっていたとする。

表3 第2回検証授業における課題と対策

ICT活用場面でのトラブル	対策・修正点
サインインや保存時などの場面で、補充教諭のサポートがなければ、授業の進行に差し支えることもあり、助けられた。	授業者が1人で対応できるだけの活動の量とタイムマネジメントが必要である

ライティング指導における課題	対策・修正点
I C T活用のリスクを考えすぎて、新たな学びをワークシートに記入させる時間が不十分であった	○タイムマネジメントに留意する ○ペア活動・思考の時間を優先的に考える

(3) 第3回検証授業

① 単元名 Lesson 8 Selective Breeding

② 単元目標

ア 犬の品種改良における良い点と悪い点について理解する

イ 犬の品種改良がどのように行われてきたか、また犬が品種改良によってどのように悪影響を受けたかについて自分の言葉で述べることができるようになる

ウ 今後品種改良を通して犬を改良し続けるべきか話し合うことができるようになる

エ 犬の品種改良の問題点に関する意見を書けるようになる


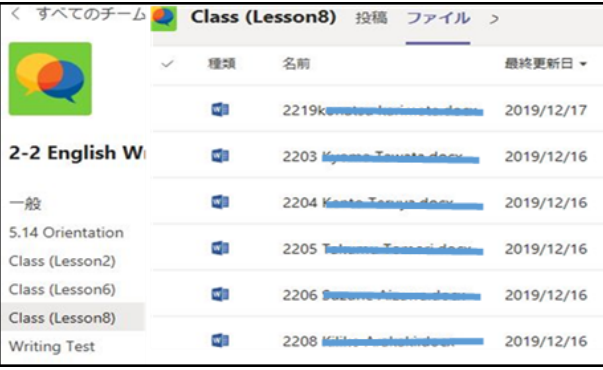
③ 単元計画


時間	活動内容
1 時間目	レッスンの導入 (教科書 P.115 Leading In / Sharing Ideas ) グループディスカッション (犬は家の中で飼うべきか否か)
2 時間目	パート別リーディング活動 (パート 1)
3 - 4 時間目	パート別リーディング活動 (パート 2)
5 - 6 時間目	パート別リーディング活動 (パート 3)
7 時間目	Comprehension Activity ・ Vocabulary Check
検証授業	8 時間目 スピーキング活動 (犬の品種改良に関するディスカッション) ●ライティングのためのアウトライン作成
	9-10 時間目 ライティング活動 (犬の品種改良に賛成か反対か) ●ライティング・シェアリング・リライト

④ 実際の活動の様子

(全 3 時間)	活動内容
目標：犬の品種改良について自分の意見が書けるようになる	
第 1 時 ・自分の考えを整理し、グループで共有する ・アウトラインを作成する	<p><u>Topic 1</u> Do you think it is wrong to improve dogs by selective breeding?</p> <p><u>Topic 2</u> (1)What are the problems of selective breeding of dogs? (2)What are the good points of selective breeding of dogs? (1) スピーキング活動</p> <p><u>Topic1</u>と <u>Topic2</u> について、 ①個人で考える (ワークシートに記入) ②ペアで話し合う ③グループで共有する (2) アウトラインの作成</p> <p>Topic sentence →Body(supporting sentences) → Closing sentence を組み立てる ・ワークシートに箇条書きにしてまとめていく</p>

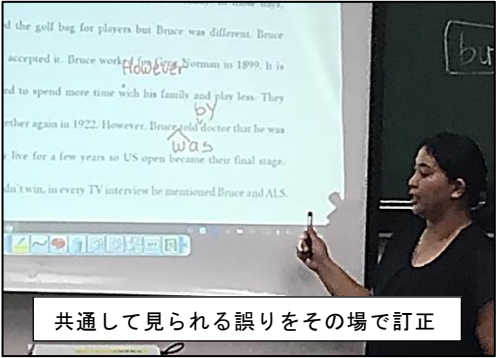


<p>文頭で賛成 or 反対を明確に主張する</p> <p>主張の理由を、具体例や調べた情報を追加しながら述べていく</p> <p>冒頭で述べた立場を再度述べるが同じ表現の繰り返しにならないように工夫する</p>	<div> <div>Topic sentence</div> <div>↓</div> <div>Supporting sentences</div> <div>↓</div> <div>Closing sentence</div> </div> <p>Agree with selective breeding</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>The abilities of dogs is very useful <ul style="list-style-type: none"> <li>↳ They have many abilities which humans can't</li> </ul> </li> <li>ex) pit bull → protect human</li> <li>Golden Retriever → Frindly tipe</li> <li>Shepherd → as police dog</li> </ul> <p>We can make stronger companionship between dogs and humans.</p>
<p>第2時</p> <p>前時で作成したアウトラインを基にライティング活動を行う</p>	<p>Topic : <u>"Are you for or against selective breeding?"</u></p> <p>(1) チェックリスト項目の確認 ライティングをする際に気を付けるべき点を全体で確認する</p> <p>(2) Useful Expression の確認 支援の1つとして、書き始めの表現や結論部分のまとめ方など、共通して使えるような表現をワークシートに掲載。全体で確認する。</p> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>I am for/against selective breeding. I have three reasons.</li> <li>First, ... Second, ... Third, ...</li> <li>We should stop selective breeding for the health of dogs.</li> <li>Selective breeding is useful for humans.</li> <li>In conclusion, ...</li> </ul> </div> <p>(3) ライティング活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①Word を使って書き始める</li> <li>②名前をつけて保存する (4ケタのクラス番号+名前)</li> <li>③Teams のチャネル Lesson 8 の「ファイル」に保存して提出 (1回目)</li> </ol>
	 <div> <div>(左)ライティング活動の様子</div> <div>(右)Teams「ファイル」の画面</div> </div>
<p>第3時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互評価を行う</li> <li>・シェアリング</li> <li>・書き直しをする</li> </ul>	<p>(1) Peer Feedback</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①Correction Code による添削</li> <li>②Checklist による添削</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問に思ったこと、感想などのコメントを書いてパートナーに返却</li> <li>・ペアの英文から新しい発見 (表現や内容面) があれば、ワークシートに記入する</li> </ul> <p>(2) 全体シェアリング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①Common errors (共通の誤り) を電子黒板で提示</li> <li>②Good works (生徒の良い英文) を電子黒板で紹介</li> <li>③各自、読んでみたい英文を閲覧 (Teams「ファイル」から)</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は上の内容をワークシートに記入</li> </ul> <p>(3) リライト・提出</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ペア活動や全体シェアリングで得た学びを追加して書き直しをする</li> <li>②Teams の「課題」に各自のファイルをアップロードして提出</li> </ol>



シェアリング・リライト時の様子

CORRECTION CODE		
Code	Type of error	Example
pl	Plural / singular	I have many <u>book</u> on music. pl
vf	verb form	I'm <u>liking</u> sushi. vf
WW	wrong word	He's very <u>high</u> man. WW
sp	spelling	It is <u>nesecary</u> to be able to spell. sp
Gr	Grammar error	Any grammar mistakes



共通して見られる誤りをその場で訂正

Good expressions

It is easy for dogs to suffer diseases

Selective breeding has been done all over the world, but I am against it.

Common errors

Free → Freedom

シェアリングで得た内容はワークシートに記入

#### (4) チェックリスト

ワークシートには以下のチェックリストをワークシートに掲載し、書く前に内容を確認する。そうして何に注意して書けばいいのかを意識させるようにする。そして、再度同じものを Peer Feedback でも使用し、ペアの英文をチェックする際の観点を意識させる。

表4 Opinion Writing のためのチェックリスト

Opinion Writing Checklist			✓
Check	1	The writer took his/her own position ( for / against ).	
Check	2	The writer expressed reasons to support his/her position.	
Check	3	The writing was presented in reader-friendly and logical way such as; topic sentence, supporting sentences, and closing sentence.	
Check	4	The writer used a wide range of vocabulary.	
Check	5	The writer chose appropriate vocabulary which helped the reader to understand clearly.	
Check	6	The writer used a variety of grammar.	
Check	7	The writer used grammar appropriately.	

#### (5) 評価のためのルーブリック

チェックリストと関連付けたルーブリック表(表5)を作成し、Target Goal(到達目標)をBと設定した。このルーブリック表に基づき、リライト後に提出された英文の評価を行った。

表5 評価のためのルーブリック

Content	
A	You describe your idea on selective breeding of dogs based on information and grounds that have deepened the content of the text.
B	<b>You describe your idea on selective breeding of dogs showing grounded reasons based on the content.</b>
C	Reasons/Grounds for supporting your idea are not clear or not enough.
Organization	
A	Your writing is presented in a reader-friendly, logical and attractive way.

B	<b>Your writing is presented in a reader-friendly and logical way such as; Topic sentence → Supporting sentences → Closing sentence</b>
C	Your writing is not presented in a logical way.
<b>English</b>	
A	Excellent use of vocabulary and grammar. • No errors that lead to misunderstanding the meaning.
B	<b>Good use of vocabulary and grammar.</b> • <b>Some errors but they won't lead to misunderstanding the meaning.</b>
C	Limited use of vocabulary and grammar. • Occasional error that may lead to misunderstanding the meaning

#### 4 仮説の検証

研究仮説に基づき、「Teams を活用し、技能統合型のシェアリングを通して、生徒が他者から学び、自らの考えを深めるライティング活動が充実できたか」を検証する。

(1) Teams の活用はライティング活動の手立てとして有効だったか

##### ① 保存先としての活用

###### ア 個々の進度に応じた指導

本研究のライティング活動は Word を用いて英文を作成し、デジタルデータとして Teams に保存させた。ライティング活動は、時間内で書き終えるというタスク目標に対して、個人差が大きく出てしまいがちで、書きたい内容はあるのに最後まで書き終われずに提出せざるを得ないということが起きてしまう。それでは思考を評価できていないことが問題点の1つでもあった。Teams を保存場所としたことで、授業時間内に書き終われなかった生徒は、各自の Office365 のアカウントで自宅のパソコンや放課後のパソコン教室からアクセスし、最後まで仕上げられるようになった。実際に、Teams の画面に表示される編集時間を見ていると、生徒の中には早朝に手直しをしたり、授業時間外に何度も思考して書いている様子がうかがえた。

###### イ 教師からのフィードバック

Teams の決まった場所に英文データを保存することで、教師側もいつでも個々の生徒の進捗状況を知ることが出来る。Word のコメント機能を利用して、シェアリングやリライトの時間までに、個々の英文へのフィードバックコメントを残し、言語面での訂正や内容面でのアドバイスなどを与えることができた。いわばオーダーメイド的な支援が可能となった。そうして、生徒は授業中のリライトの時点で教師からのフィードバックを読み、そこでの修正を基に書き直すことができ、PDCAを回すことにもつながった。

##### ② 共有・閲覧

###### ア 全体シェアリングの場面

検証授業の中では、Peer Feedback のあとに、実際に提出された英文の中から Good Works (良い英文) と Common errors (共通して見られる誤り) を全体で共有するようにした。スクリーンに英文を投影し、電子黒板機能を使って訂正などを書き込んで提示した。その際に、Word で作成された文書はズームアップが容易にでき、タイピングされた文字は手書きの文書よりも鮮明で、スクリーン上でとても読みやすいと感じた。電子黒板で実際に訂正したり、良い英文を紹介している最中に、自分の手元の PC で自分の英文に即座に反映させ、書き直しをしながら聞いている生徒も見られた。

###### イ 閲覧について

全体シェアリングの後には、各自読んでみたい生徒の英文を見てもいい時間を設けた。この際、人の文書を絶対に編集しないなどのルール作りをした上で、閲覧させた。画面上では誰が自分の英文を読んでいるのか見える仕組みになっており、読んでもらった生徒にとっても、クラスメートの英文を読んでリライトの参考にできた生徒にとっても、他者の

英文を自由に読めるという時間はとても有意義だったと考える。今回、Teams を使ったことで、誰かに読まれるという場の設定ができたことは、生徒が英文を書く際に「読み手を意識して」書くことにつながっていた。自分の英文を読むのは誰なのかというターゲットを明確にすることで、状況に応じた言葉選びや情報の精選を意識できるようになったと感じた。

### ③ Teams の「課題」機能の活用

リライトの段階を経て、書き終えた英文は、最終的に Teams の「課題」へ提出させた。前述したように、ループリックを使って採点し、フィードバック欄にコメントを載せて返却した。作業自体もシンプルで時間をかけずに取り組むことができた。採点して出したスコアは Excel データでの管理が可能で、蓄積していけば、授業改善につながるデータとしても活用できるだろう。これまで、提出された英文を返却するまでに時間がかかり、生徒も自分が何を書いていたのか忘れてしまった、というような状況は改善できたと考える。

## (2) 技能統合型のシェアリングを通して、他者から学び、自らの考えを深めるライティング活動が充実できたか

### ① Peer feedback について

シェアリング活動の1つとして、ペアで行う Peer feedback を行った。保存してもらった英文をプリントアウトし、ワークシートとして、本人に返却し、Correction code(訂正コード)とチェックリストを使って、ペアでお互いの英文を添削させた。パートナーのワークシートには、感想コメントや疑問に思ったこと、アドバイスを英語で書くようにし、パートナーがリライトする際の参考になるように意識させた。しかし、この時の大きな問題点として、ペア間の英語力に差があるとき、相手へのフィードバックが十分にできていなかったことが挙げられる。また、ここでは、パートナーの英文を「読む」活動と、お互いの英文について「話す」活動を行ったが、感想を述べあう表現や相手に助言を求める表現などの事前の支援が不十分だったため、活動が円滑にいかなかったペアも見られた。コミュニケーションが図れているペアにおいては、“What do you mean this?” や “Do you have examples?” といったフレーズを用いながら、英文の内容や言語面について思考している様子があった。その後

のリライトの活動時には、パートナーからのコメントを受けて、再度自分の英文と向き合い、再考し表現する姿が見られた(図9)。ペアとのシェアリングの中で、自らの考えを深めることができたと考える。

### ② ライティングテストの考察

検証前(5月)と検証後(1月)にライティングテストを実施した。検証前後で同じトピック

I am against selective breeding of dogs. I have three reasons. First, selective breeding is not healthy for dogs. Selectively bred dogs are easy to appear genetic disease and become ill so they cannot live long. Second, selective breeding is good for only humans. It is convenient for humans to make more intelligent dogs, stronger dogs, and so on, but dogs may want to be such dogs. Finally, we may fail to breed. If humans fail in selective breeding, very dangerous dogs are produced. That is why I think.

(89 words)

COMMENT

Do you have some examples that occur actually of your first reason?

(Peer feedback 後)

I am against selective breeding of dogs. I have three reasons. First, selective breeding is not healthy for dogs. Selectively bred dogs are easy to appear genetic disease and become ill. For example, eye disease, born disease and muscle disease. Therefore, they cannot live long. Second, selective breeding is good for only humans. It is convenient for humans to make more intelligent dogs, stronger dogs, and so on. However, we can't understand dogs' mind, so dogs may not want to be such dogs. Finally, we may fail to breed. If humans fail in selective breeding, very dangerous dogs are produced. Selective breeding is very useful for us and our society, but there are many dogs suffering from selective breeding. That is why I cannot be for selective breeding.

(128 words)

図9 Peer feedback 前後の英文の変容



クで出題し、「内容」「構成」「英語」の項目を設けたルーブリック表(表6)を基に評価を行った。テストの形式は Word を使って文書作成、Teams の「課題」へ提出という形で実施した。

検証前のテストでは、使用した単語の平均数が a 組は 48.6 語、b 組は 25.3 語となり、かなり少ない結果となった。これは、生徒が機器の操作や Teams へのサインインなどに不慣れであったことに加え、ネットワークのトラブルで、最後まで書き終わることができない生徒もあり、テストの実施自体に支障をきたしたことも要因にあげられる。そのため、両クラスとも「構成」のスコアも低い結果となっている。ICT を活用する場合は、生徒教師共に、機器の操作に慣れていることが重要であると示した結果でもあると考える。「内容」の項目では、具体例としてあげている情報の質を、「構成」は英文を書く際の基本的なフォーマットを指導し、どちらも読み手が誰なのか、どんな言葉選びをすれば読みやすいのか、ということを意識させるよう心がけた。

検証後のテストの結果は、「内容」面で、到達目標の B 以上を取る生徒が a 組は 50 ポイント、b 組は 22 ポイント増加した。また、「構成」面で、到達目標より上の A を取った生徒が a 組は 16 ポイント、b 組は 6 ポイント増加した。「英語」面においては、B を取った生徒が a 組は 25 ポイント、b 組は 50 ポイント増加している。全体で見ても、使用語数の平均が a 組は 48.6 語から 105.9 語、b 組は 25.3 語から 90.6 語と増えている。このことから、ICT 環境が整い、生徒も ICT 活用に慣れてきた上で、英文を書くための知識が身についたことが読み取れる。また、情報を整理し、読み手に伝わりやすい表現を使って、英文の正しい構成を考えながら文を書けるようになっている点においても、本研究の成果だと考える。

今回、英語力の違いがある 2 クラスで検証した結果において、両クラスとも全ての項目で、B 以上を取る生徒の割合が増えた。本研究のライティング活動が、英語力を問わず有効であった。ペアや全体でのシェアリングを通して、他者と関わり、自分の英文を読んでもらう機会を設けられたことは、学習者の思考を深める活動として十分に効果があったと考える。

表 6 ライティングテストのルーブリック表

	Content	Organization	English
A	Describes his/her idea on introduction of Okinawa based on specific information and specific examples.	His/Her writing is presented in a reader-friendly, logical and attractive way.	Excellent use of vocabulary and grammar. No errors that lead to misunderstanding the meaning.
B	Describes his/her idea on introduction of Okinawa based on information and examples.	His/Her writing is presented in a reader-friendly, logical way such as; introduction, body and conclusion.	Good use of vocabulary and grammar. Some errors but they won't lead to misunderstanding the meaning.
C	Information and examples are not clear or not enough.	His/Her writing is not presented in a logical way. OR The writing is not completed.	Limited use of vocabulary and grammar. Occasional errors that may lead to misunderstanding the meaning.

表 7 ライティングテストのスコア比較

a 組		検証前	検証後	増減
内容	A	0 %	11 %	↑
	B	15 %	54 %	↑
	C	85 %	35 %	↓
構成	A	3 %	19 %	↑
	B	10 %	73 %	↑
	C	88 %	8 %	↓
英語	A	0 %	5 %	↑
	B	58 %	78 %	↑
	C	43 %	16 %	↓
語数		48.6 語	105.9 語	↑

b 組		検証前	検証後	増減
内容	A	0 %	11 %	↑
	B	14 %	25 %	↑
	C	86 %	64 %	↓
構成	A	0 %	6 %	↑
	B	0 %	64 %	↑
	C	100 %	31 %	↓
英語	A	0 %	0 %	↑
	B	22 %	72 %	↑
	C	78 %	28 %	↓
語数		25.3 語	90.6 語	↑

### ③ 生徒アンケート自由記述より

第3回検証授業後にライティング活動を振り返ったアンケート調査を実施した（表8）。

P Cを使ったライティング活動についての感想や考えを答えてもらった。肯定的な感想には、パソコンで英文を書くことの将来性や Teams でシェアリングができたことで、学びが深まったことを述べるものが多くあがった。否定的な感想としては、パソコンの操作が苦手な英文を仕上げるのに時間がかかってしまった、テストはペーパー形式なので紙でも練習したい、というものがあがった。機器の操作やタイピングスキルは英語の授業だけで伸びるものではなく、今後、情報科の授業や他教科とも連携しながらトレーニングしていく必要があると感じた。また、今回の検証授業ではある程度まとまった量の英文が書けるようになることを目的として行ったもので、パソコンを使わずに行うライティング活動も年間の授業計画の中で取り組んでいくものだと考えている。

総合的に見て、今回は3つの単元でしか一連のライティング活動が実施できなかったが、その中で授業を追うごとに、生徒は積極的に自分の考えを表現し、受け手を意識した発信するスキルが身につけていることを実感できていたと考察する。

表8 生徒アンケートの自由記述より

○初めてのP Cを使った意見文作成だったため、グダグダな面もあり、一気にライティングの能力が上達したわけではありませんでした。しかし、紙ではない道具で自分の意見を書いたことで、毎回「読み手にわかりやすく、楽しく読める文」を意識して書くことができました。今後はTwitterなどのSNSで外国人の方と自分の英語でコミュニケーションを取っていききたいと思います！（もうグーグル翻訳で英語を送らないゾ！）

○自分だけが読めるではなく、誰が見ても理解してもらえるような英文を書くのは大変だったけど、ボキャブラリーが増えたり、みんなのいろんな考え方に触れて、毎回違う内容だったけど、各回あらゆる角度から物事を見つめられるようになったので、すごく楽しかったです。

○紙媒体と違って、クラスのほかの人が書いた色んな内容のライティングを見ることができるし、自分の意見とほかの人の意見の争点を見つけて自分のライティングに生かすことができました。そして、（以前は）先生に採点してもらうまでに時間がかかったりしたけど、家でもteamsを開くことができるから、家で確認できたりして、とても楽でわかりやすかったです。

●機材トラブル等で時間が多少潰れることがあるし、受験本番もペーパーテストなので、従来通り紙でやってもいいんじゃないかなとは思っています。

●ライティングの力だけではなくタイピングの力も必要なのが、ちょっと大変だったけど、普段なかなかP Cを使って英文を書く機会がないので、とても良い経験になった。

●使いこなしたら早く授業が進むんだろうけど、まだP Cを使う授業に慣れていないからどうしても進行が遅くなるような気がする。

## IV 成果と課題

### 1 成果

- (1) ライティング活動に Teams を活用したシェアリング活動を加えたことで、「書く」ことだけにとどまらない技能統合型の活動を行うことができた。
- (2) ライティング活動の中で他者とのシェアリングの時間を持てたことが、新たな気づきを促し、思考を深める授業デザインの構築につながった。
- (3) 教師は Teams の活用により、添削やフィードバックを効率よく行うことができるようになり、授業作りを充実させることができた。

### 2 課題

- (1) Teams をはじめとする生徒のICT活用のためには、英語科の授業だけではなく、他教科との連携も必要であった。様々なネットワークトラブルも起きうるものと想定し、ICT機器に頼るのではなく、そのようなトラブルに対応できるバックアップ案を準備して臨む必要もある。
- (2) Peer feedback などのペアで行う活動の際、ペア間に英語力の差があると、一方に負担が偏り、深い学びを実現することが難しい場面もあった。ペアリングの工夫や、力の差をフォローする手立てを考えなければならない。
- (3) 4技能を統合した活動を充実させるためには、多くの英文を読み、多様な考え方ができるようになることが大切であり、改めてインプット活動の重要性も感じた。

## 〈参考文献〉

- 新英語教育研究会編集 2019 『新英語教育 10 月号』 高文研  
新英語教育研究会編集 2019 『新英語教育 9 月号』 高文研  
鈴木健士著 2018 『ここで差がつく！英文ライティングの技術』 トフルゼミナール  
松井恵美子・石井洋祐著 2018 『基本を学び構成力を養う英語ライティングルールブック』 トフルゼミナール  
文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）』  
三浦孝他編著 2016 『高校英語授業を知的にしたい』 研究社  
大井恭子・田畑光義・松井孝志編著 2014 『パラグラフ・ライティング指導入門』 大修館書店  
キース・モロウ著 2013 『ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）から学ぶ英語教育』 研究社

## 〈参考 WEB サイト〉

- Microsoft Education（最終閲覧 2020 年 2 月）  
<https://www.microsoft.com/ja-jp/education/default.aspx>  
蔵知英 「ライティングタスクの定期的な実施とそのフィードバック」（最終閲覧 2020 年 2 月）  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/celes/47/0/47\\_259/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/celes/47/0/47_259/_pdf)  
文部科学省 「平成 30 年度『英語教育実施状況調査』調査結果の概要について」（最終閲覧 2020 年 2 月）  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/)  
文部科学省 「平成 30 年度『英語教育実施状況調査』調査結果 高等学校」（最終閲覧 2020 年 2 月）  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/)